

# 辺野古の海を守る 漁業組合を設立

## 名護市東海岸の住民ら

【名護】名護市東海岸地域の住民約35人は任意団体

として「名護市東海岸入会漁業組合」（稲嶺盛良組合長）を設立したと25日発表された。地元住民が持つ「入会漁業権」を前面に掲げ、辺野古の新基地建設にも反対する。

汀間公民館で会見した新名善治事務局長は「海を利用してきた住民が激減し、海を暮らした糧としてきた文化が破壊されようとしている」と懸念を示し、辺野古の土砂投入についても「怒りを禁じ得ない」と批

判した。

顧問で明治学院大学の熊本一規名誉教授（漁業法）は「辺野古埋め立ては地域住民の入会漁業権を無視している。漁業権者の同意がないので違法だと主張でき、県の埋め立て承認撤回の理由になる」と指摘した。団体の前身は名護市東海岸漁業協同組合。2017年11月と18年5月の2回、共同漁業権を求め県に漁協の認可を申請したが、いずれも認められなかった。新

名事務局長は「不認可理由の一つが『組合員全員に漁業を続ける意志が確認されない』だった。漁業実績を作り、改めて申請したい」と話した。